

クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社主催
経済安全保障と医薬品安定供給セミナー

講演

2022年9月12日（月）14：10～14：30

医薬品卸における 限定出荷品対応



一般社団法人 日本医薬品卸売業連合会 副会長

一條 武

クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社がオンライン（Web配信）で開催した「経済安全保障と医薬品安定供給セミナー」では、卸連合会の一條副会長が、「医薬品卸における限定出荷品対応」について講演した。

一條副会長は、バイタルネットとDrugShortage.JPのデータを基に、出荷調整品の成分数、品目数、アイテム数の推移を説明。出荷調整品は2022年1月をピークに減少していたものの、3月から再び増加に転じ、8月末時点で大幅に増大していると語った。そのため、新型コロナワクチン配送受託に加えて、医薬品の出荷調整の業務比率が高まっており、MSなど営業現場の負担が極めて重くなっている窮状を訴えた。さらには9月からの医療機器と診断薬品の大幅な値上げについて言及し、対策を議論し実行する必要性を強調した。

*講演内容は、講演の録音データを原稿に起こし、講師校閲のうえ、掲載したものです。

医薬品流通の概要と卸の役割

日本医薬品卸売業連合会副会長の一條です。本日は、医薬品卸における限定出荷品対応について、具体的なデータを示しながら、現在、現場で起きていることをお話しします。

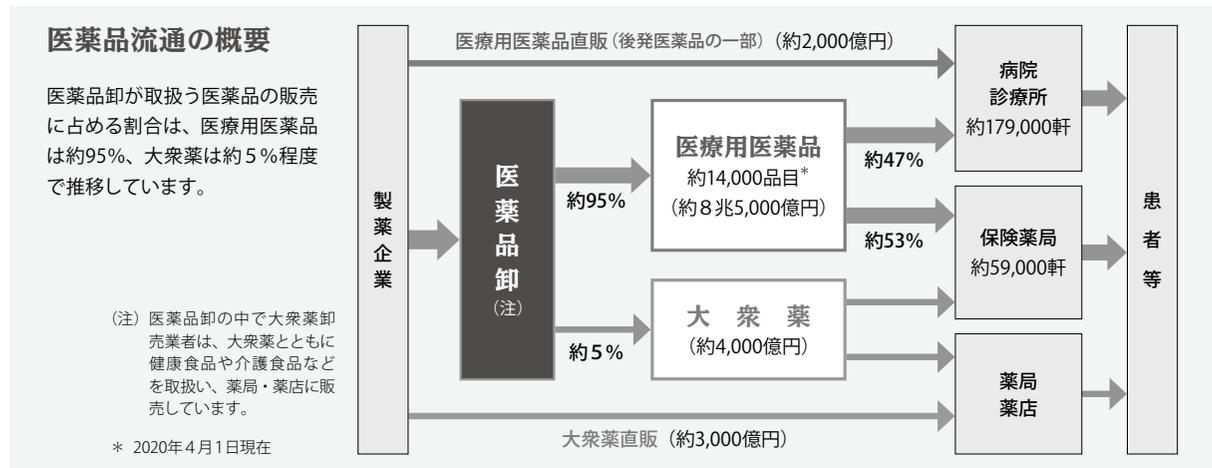
まず、医薬品流通の概要と卸の役割について図表1に示しました。医薬品卸が取り扱っている医

療用医薬品数は約1万4,000品目、約8兆5,000億円です。そのうちの約47%を病院・診療所へ、約53%を保険薬局へ届けています。

加えて、大衆薬（約4,000億円）を保険薬局や薬局・薬店へ届けています。

2020年度の「医薬卸連ガイド」では、保険薬局は約5万9,000軒となっていますが、厚生労働省の2021年度のデータでは6万171軒に増えており、コ

図表1 — 医薬品流通の概要と卸の役割



Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

出典：医薬卸連ガイド 2020年度版

図表2 — ポイント／医薬品卸における出荷調整の実態報告

- ◆ **8月末現在、出荷調整品が成分数で556 品目数で6,500 アイテム数で13,000 依然として大きな負荷がかかっている**
(出典:DSJP8月末)
- ◆ **特にお得意先への要望に可能な限り応えるため、限られた在庫の配分を調整するMSに相当な負荷がかかっている**
- ◆ **医薬品卸各社は、出荷調整品の業務負担増大の対策としてシステム開発を急いでいる**

Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

ンビニよりも多くなっています。

出荷調整の実態報告

● 出荷調整のポイント

今年（2022年）8月末現在の医薬品卸における出荷調整の実態報告についてお話しします。ポイントは図表2のとおりです。

出荷調整品は成分数で556、品目数で6,500、アイテム数で1万3,000となっており、大きな負荷がかかっています。

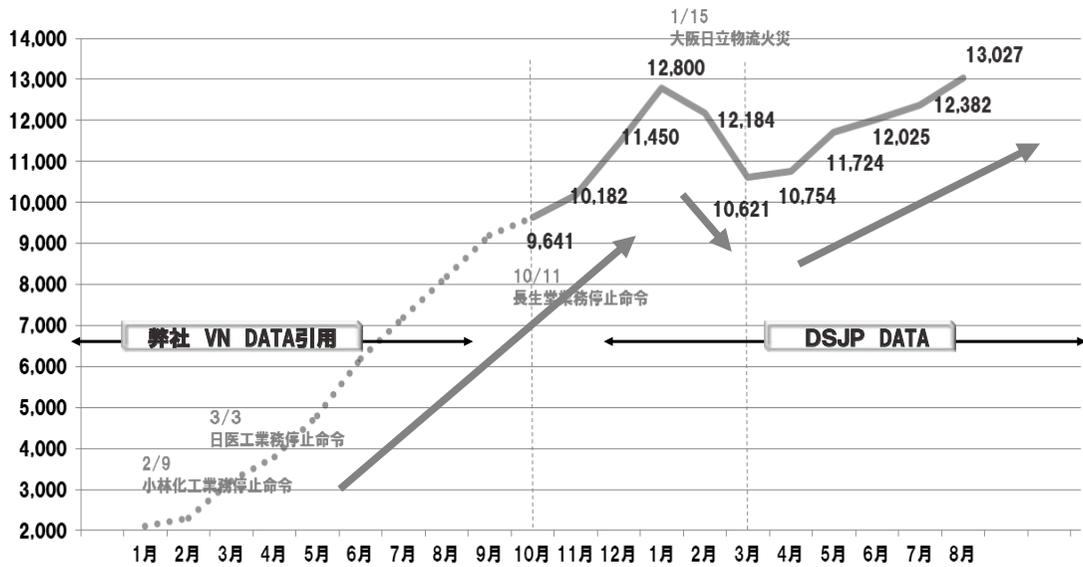
特にお得意先への要望に応えるため、限られた在庫の配分を調節するMSに相当な負荷がかかっています。毎日お得意先の先生方と出荷調整の話を

している状況です。現在、医薬品卸売業の各社は、システムによって自動で先生方へ情報を提供する体制を構築するなど、出荷調整品の業務負担対策としてシステム開発を進めています。

● 出荷調整品のアイテム数の推移

具体的な数字を見てみましょう。図表3は出荷調整品のアイテム数の推移です。昨年（2021年）9月までは当社、バイタルネットのデータを使い、10月以降はDrugShortage.JPのデータを使っています。DrugShortage.JPは近野優代表の下、薬剤師の先生方で構成される組織で、4人の薬剤師の先生方が調剤業務終了後、出荷調整品のデータ（限定出荷と出荷停止）、また、出荷再開の数字を毎日更

図表3 — 出荷調整品（アイテム）推移 21年1月～22年8月



出典：医療用医薬品供給状況データベース DrugShortage.JP

2021年10月末～2022年8月末データ

Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

図表4 — 成分、品目、アイテム【定義】

仕入先名	品名	包装単位	例/A社	数量ベース	薬価金額 (B*Y)	カテ	一般名
①	アムロジピンOD錠10mg「〇〇〇」	PTP	100T	50,100	1,081,500	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	100T	12,000	121,200	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	140T	14,000	141,400	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	500T	186	93,000	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	700T	20	14,000	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	000T	45	45,000	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
②	アムロジピンOD錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	700T	47	23,500	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	500T	2	1,400	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	12	12,000	121,200	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
③	アムロジピンOD錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	11	5,500	55,550	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠5mg「〇〇〇」	PTP	707	70,700	904,960	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠5mg「〇〇〇」	PTP	7	980	12,544	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠5mg「〇〇〇」	PTP	500T	186	93,000	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠5mg「〇〇〇」	PTP	700T	20	14,000	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピンOD錠5mg「〇〇〇」	PTP	000T	45	45,000	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
④	アムロジピン錠10mg「〇〇〇」	PTP	500T	47	23,500	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピン錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	140T	14,000	141,400	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピン錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	500T	12	12,000	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピン錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	700T	16	11,200	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
⑤	アムロジピン錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	700T	12	12,000	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピン錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	000T	8	4,000	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピン錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	500T	8	4,000	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピン錠2.5mg「〇〇〇」	PTP	000T	309	30,900	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
⑥	アムロジピン錠5mg「〇〇〇」	PTP	140T	18	2,520	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピン錠5mg「〇〇〇」	PTP	500T	53	26,500	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピン錠5mg「〇〇〇」	PTP	700T	38	26,600	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピン錠5mg「〇〇〇」	PTP	000T	61	61,000	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩
	アムロジピン錠5mg「〇〇〇」	PTP	000T	19	9,500	ジェネリック品	アムロジピンベシル酸塩

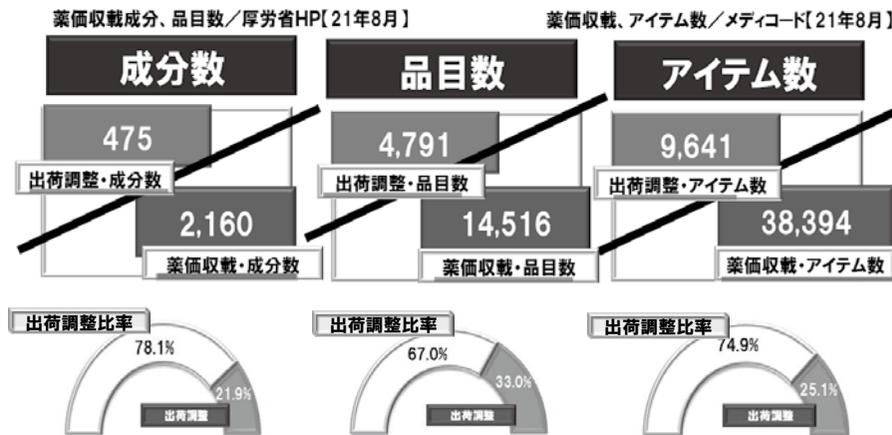
Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

新しています。今回は許可をいただいてデータを使わせてもらいました。DrugShortage.JPの皆様にお礼を申し上げます。

このデータの推移を見ると、昨年2月に小林化工、3月に日医工、そして10月に長生堂が、それぞれ業務停止になりました。加えて、今年1月に

は大阪で物流センターの火災が起こって大きな影響を受けました。その時点で、出荷調整品のアイテム数はピークに達しました。そこから徐々に出荷再開となって、良い状況に推移していくかと思いましたが、今年3月からまたいろいろな問題が起こって出荷調整が増加に転じました。8月末時

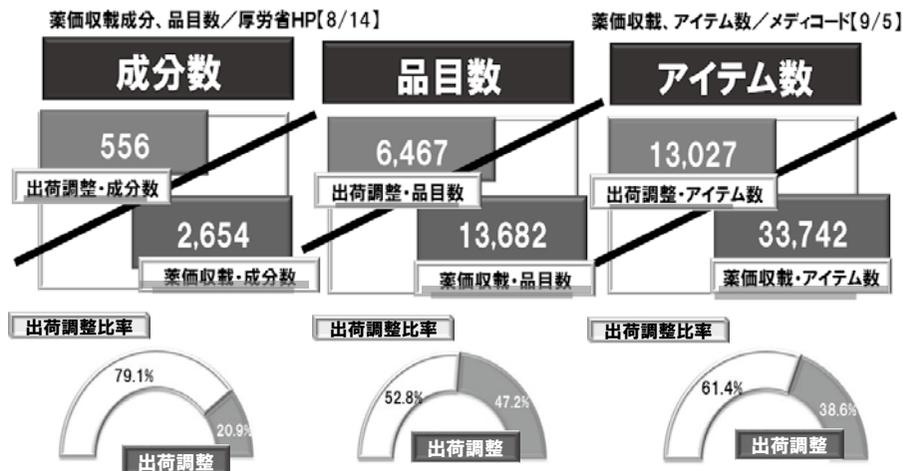
図表5 — 薬価収載品／出荷調整品状況【21年10月末現在】



Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

出典：医療用医薬品供給状況データベース DrugShortage.JP

図表6 — 薬価収載品／出荷調整品状況【22年8月末現在】



Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

出典：医療用医薬品供給状況データベース DrugShortage.JP

点で1万3,027アイテムが出荷調整となっています。さらに9月12日現在では1万3,237アイテムとなっています。

●アイテムとは何か

ここで、アイテムとは何かについて、アムロジピンベシル酸塩を例に確認しておきましょう（図表4）。アムロジピンベシル酸塩はカルシウム拮抗剤で、一番多く使われている血管拡張剤です。

A社では「アムロジピン」という製品名で、OD錠が10mg、2.5mg、5mg、錠剤が10mg、2.5mg、5mgで、合わせて6品目あります。そして、品目

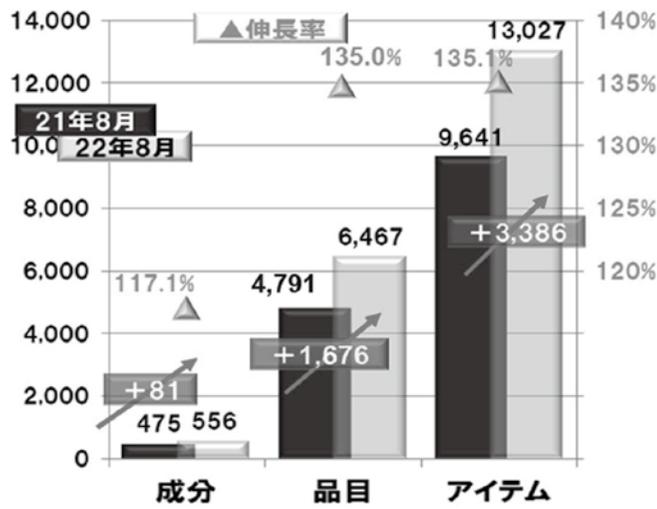
ごとに包装量の違いによって26種類に増えます。これがアイテム数になります。つまり、6品目、26アイテムですが、成分はあくまでもアムロジピンベシル酸塩の1成分です。そして、アムロジピンベシル酸塩は14社が出しており、トータルで品目数は56、アイテム数は170に上ります。つまり、1成分だけで170アイテムになりますが、この1成分が限定出荷になると170アイテムが影響を受けることになります。

●昨年10月と今年8月の比較

図表5は、昨年（2021年）10月末の出荷調整品

図表7 — 出荷調整品（セグメント別）伸長

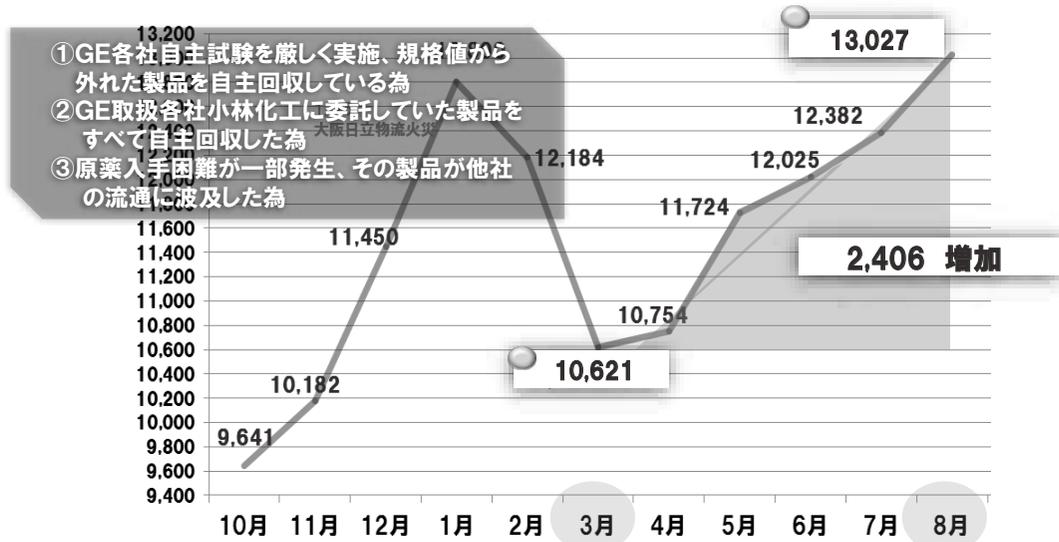
【21年10月／22年8月】



Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

出典：医療用医薬品供給状況データベース DrugShortage.JP

図表8 — 出荷調整品（アイテム）推移 21年10月～22年8月



Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

出典：医療用医薬品供給状況データベース DrugShortage.JP

の状況です。成分数と品目数は厚生労働省のデータ、アイテム数はメディコードのデータを使用しています。成分数では薬価収載の2,160のうち475、比率で21.9%が出荷調整になっています。品目数では1万4,516のうち4,791（33.0%）、アイテム数では3万8,394のうち9,641（25.1%）が出荷調整になっています。

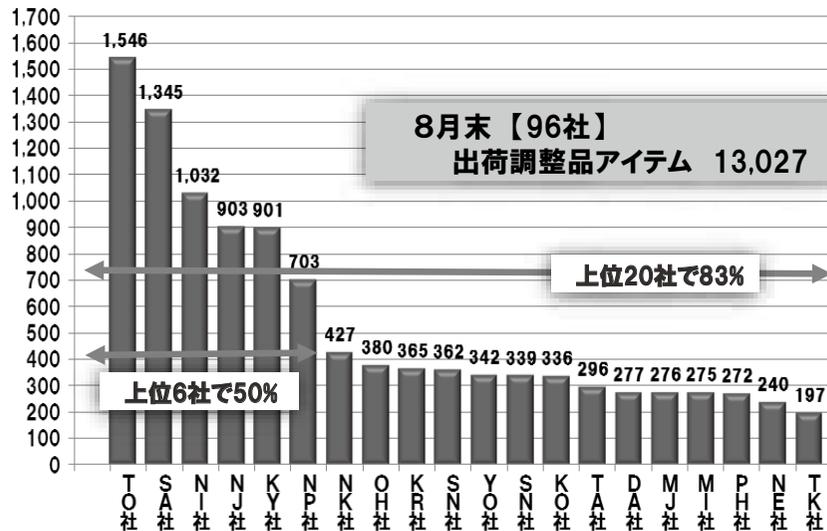
次に、図表6は今年（2022年）8月末の状況で

す。成分数は556に増え、比率は20.9%になっています。品目数は6,467（47.2%）、アイテム数は1万3,027（38.6%）に、それぞれ増大しています。

これをグラフにすると図表7のようになります。出荷調整品は1月をピークに減少していましたが、3月から再び増加しています。

そのうちのアイテム数の推移を示したのが図表8です。ジェネリックメーカー各社は自主試験を

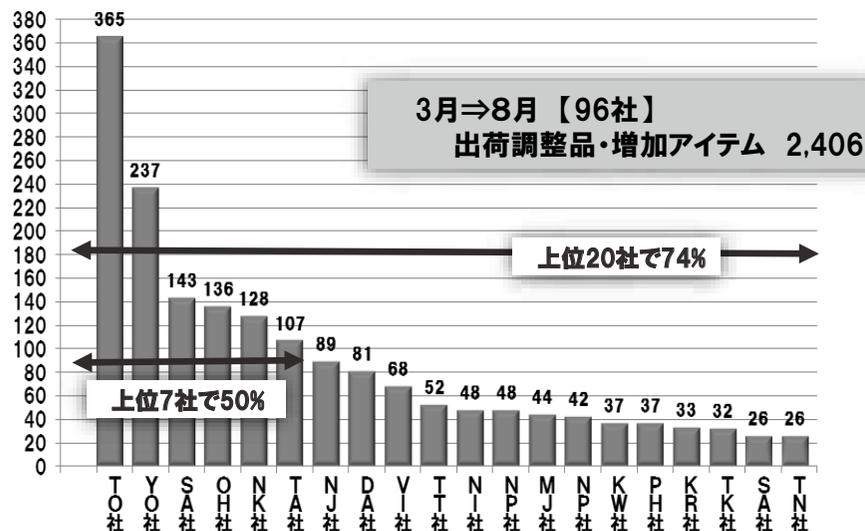
図表9 — 出荷調整品（アイテム）メーカー 22年8月末



Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

出典：医療用医薬品供給状況データベース DrugShortage.JP

図表10 — 出荷調整品（アイテム）メーカー増加状況【22年3月～8月】



Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

出典：医療用医薬品供給状況データベース DrugShortage.JP

GMPに基づいて厳しく実施し、規格値から外れた製品を自主回収しています。また、ジェネリックの取扱各社が、小林化工に委託していた製品を自主回収しました。原薬についても一部で様々な問題が発生し、その製品が他社の流通に影響したということもありました。

そのため、一度落ち着いていた出荷調整品が、再び急に増えてきたのです。今年3月から8月ま

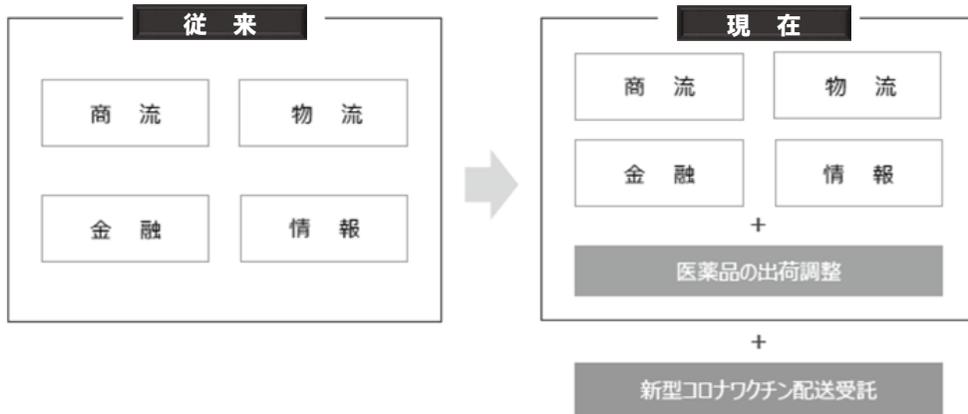
でに2,406アイテム増加しました。

●メーカー別の出荷調整品のアイテム数

今年8月末時点の出荷調整品のアイテム数をメーカー別に示したのが図表9です。全体では96社、アイテム数は1万3,027に上ります。上位6社で50%、上位20社で83%が出荷調整品になっています。

ただ、上位のメーカーが悪いのかというと、そ

図表11 — 医薬品卸が担っている機能



Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

出典：バイタルケーエスケー・ホールディングス
2022年3月期決算説明会資料

うではありません。上位のメーカーは製造して、すべての出荷調整に対して一生懸命出荷していました。しかし、それがついに滞ってしまって出荷調整に追い込まれた、ということなのです。

今年3月から8月までの出荷調整品のアイテム数の増加数をメーカー別に示したのが図表10です。全96社で2,406アイテム増加しましたが、そのうち上位7社で50%、20社で74%を占めています。

医薬品卸の対応状況

● 医薬品卸が担っている機能の変化

次に、限定出荷品の対応状況を説明します。

医薬品卸が担っている機能を示したのが図表11です。従来は、「商流」「物流」「金融」「情報」の4つの機能を担っていました。それが新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、現在は4つの機能に「医薬品の出荷調整」が加わり、さらに「新型コロナワクチン配送受託」の機能も担っています。

ガラッと仕事の内容が変わったわけですが、主にMSの業務の比率がどれくらい変わったかを当社のMSにヒアリングしてみました。

すると、コロナ禍の昨年8月の状況（図表12）では、商流はリモートになり、情報は品薄情報を中心となり、コロナワクチン対応が入ってきました。そして、医療機関の出荷調整が業務の半分以上を占めるようになったといいます。それから1

年経った今年8月には、出荷調整のアイテム数が約1万3,000に増えたことに伴い、医療機関の出荷調整業務の比率がさらに高まっていることは間違いありません。今年8月時点の出荷調整の業務負担は、昨年8月に比べて約15ポイント上昇したことがヒアリングから明らかになりました。

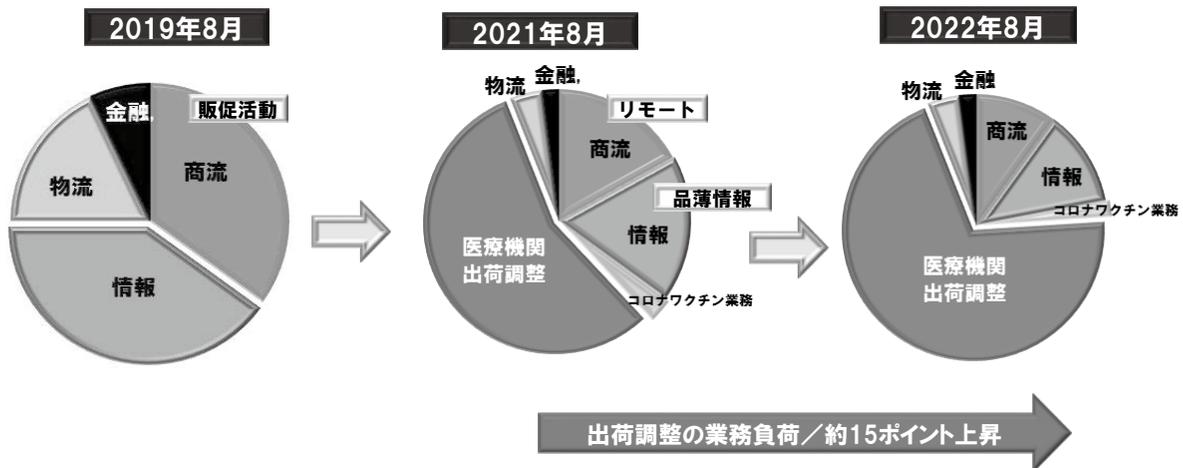
● 出荷調整における現場の状況

このような状況にあって、営業現場のMSからは悲痛な声が寄せられています。ヒアリング内容をまとめると、以下のような状況が浮き彫りになりました。

まず、MSは毎日早めに出勤し、前日分の品切れを確認して、その手配からスタートすることが日課になっています。在庫と入荷スケジュールを確認してお得意先へ連絡しますが、お得意先との関係が悪化することも多く、出荷調整におけるMSの業務負担や心的負担は大きなものになっています。出荷調整品の代替品を探し、ない場合は処方元の先生にお願いして処方を変えてもらうことも行わなければならないため、かなりの時間がかかっています。

MSの商品の手配・確認にかかる時間は、朝、昼、帰社後に各1時間、1日にだいたい3時間ぐらい要している状況です。ジェネリックメーカーは一部の企業を除き、お得意先を訪問して出荷調整について説明してくれませんので、その説明もMSが行わなければならないため、MSは業務時間を割かれ

図表12——医薬品卸機能【主にMS】の比率推移



Copyright © 2022 vital-net.inc All Rights Reserved.

るだけでなく、精神的にも辛い状況に置かれています。2年前に入社した新人MSからは、謝ることしかしていないという声も寄せられています。さらに、土日にも電話が来るので、常に携帯電話を身に着けていなければなりません。

このようにMSは非常に厳しい業務環境に置かれています。また、お得意先との良好な関係に悪影響が生じないかを大変危惧している状況にあります。

医療機関への具体的な出荷調整・業務内容の状況を見てみると、営業は、朝、品切れ状況を確認し、処方元への調剤の変更依頼や処方元・薬局への謝罪で始まり、納期を連絡します。それから配分作業を行っています。内勤は、品切れ手配と納期の連絡、品切れ品の伝票発行を行います。品切れ状況の確認などは煩雑な作業になるので、各社ともシステムを開発しています。注文があって品切れであった場合、いつ入るか、あるいは入らないかの情報を自動的にFAXで入手できるようにしたり、パソコンで見られるようにしたりできるシステムを開発し、業務負担の軽減に努めているところ です。

●医療機器と診断薬品の値上げ状況

出荷調整への対応に加え、9月からは医療機器と診断薬品が値上げになり、医療機関との価格交渉が始まります。この値上げの話は、メーカーから急に来たため、私どもも本当にびっくりしまし

た。値上げは1,760品に及び、12%値上げになります。具体的には、9月は654アイテムで値上げ率は112.9%、10月は1,106アイテムで値上げ率は112.0%です。その中には値上げ率が1.4倍から2.08倍の商品もあります。値上げをしないと赤字になりますのでお得意先の先生方と交渉しなければならず、その業務も重くのしかかってきます。

確かに、原材料と電力料金が高騰しており、液化天然ガスのアジアのスポット価格は8倍から11倍に上がっています。そのため、様々な製品の値上げが始まっていますが、薬の製造にも電気が必要なので大変な負担になっています。にもかかわらず、薬価が下がっている状況にあるわけです。

実は先週、11月の値上がり品目のリストが来ました。11月の値上がり品は3,100アイテム、105%という内容でした。ウクライナとロシアの戦争の影響もあり、今後も値上げが継続・拡大していくと予測されます。出荷調整によって医薬品が供給されない上、すべての物の値段が上がっていく、まさに経済安全保障上の大問題に直面しています。

この危機的状況にしっかり対応するため、本日は様々なデータを出させていただきました。これを基に皆さんと議論し、国民のためにどのように対応すべきなのか、様々な策を練っていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

以上で説明を終えさせていただきます。ご清聴、誠にありがとうございました。